

援助会員に
なりませんか？

講習会のお知らせ

援助会員になるための講習会を、2・6・10月の年3回行っています。「子どもが好き」という人は、ぜひ受講してください。

時 2月16日(火) 9時15分～16時15分

場 総合健康センター

内 子どもの安全と病気の世話、緊急時対応と応急処置、子どもの遊びと遊ばせ方

申 2月9日(火)までに、電話(61-2720)でファミリー・サポート・センターへ。

※カンガルールームで託児(6カ月以上)を希望する人はファミリー・サポート・センターへ(人数などの制限あり)。

たけもと る み 竹本留美さん

依頼会員、両方会員を経て援助会員として活動中。ファミサポ会員歴20年。

「安心して預けられました」
平成12年に依頼会員に登録し、ファミサポを利用し始めた竹本さん。愛媛県出身で周りに頼れる人がおらず、2人目のお子さんが障害を持つていることもあり、困った時に子どもを預かってもらえる場所を探していたそう。そんなときに市役所の保健師からファミサポを紹介され利用を決めました。

「初めて預ける時は、不安な気持ちもありました」と当時を思い返しますが、「子どもがいつもと違う環境で楽しそうにしている姿を見て、依頼してよかった」と感じたそうです。



▲すぐに子どもたちと打ち解ける竹本さん

「ファミサポだけでなく多くの支援制度があるので、刈谷市は支援体制が整っていると思います」と話す竹本さん。移住してきたこともあり、より刈谷の子育て環境の良さを実感しているそうです。

「依頼会員に登録すれば困った時に助けてくれますし、援助会員に登録すればたくさんの人と世代を超えた交流ができます。ぜひ気軽に登録してください」と笑顔を見せる竹本さんは、会員歴30年を目指し、今後も活動していきます。



▲活動の際に使うおもちゃ

うれしい楽しい 援助活動
平成22年からは援助会員として活動を開始し、小学校の送り迎えや預かりなどの活動を行ってきました。「援助をした子どもに『また遊びたい』と声をかけてもらえたときは、本当にうれしかったです」と話す竹本さん。長年活動してきた中で、援助会員として大変だと思ふことはなく、いつも楽しく活動しています。



▲成長した孫の写真を
優希さんに見せる塚本さん

「ファミサポのおかげ」
「無事、大人になれたのはファミサポのおかげです」と笑って話す優希さん。普段なかなか接することができない人と交流し、自分の家庭とは異なる面を見ることがよって自分自身の成長につながったと感じているようです。

塚本さんも「ファミサポに登録し、たくさん子どもと触れ合うことで、自分だけでなく家族の楽しみも増えました。たくさんのお会いがあったからこそ、20年間続けられました」と話します。

最後に塚本さんから「次は孫たちとも会ってください」と話すと「大きくなったみんなと話がしたい」と応えた優希さん。

家族のような関係性を築くことができることも、ファミサポの魅力です。



会員が振り返る

ファミサポの20年

この20年の中で、援助会員は預かりや送迎などいろいろな活動を経験しながら、たくさん子どもたちと触れ合ってきました。

その中から援助会員歴20年の塚本さんと初めて援助した東さん、また依頼会員として登録し、その後両方、援助会員と全て経験した竹本さんにお話を伺いました。

12年ぶりの再会

20年間、援助会員としてさまざまな家庭を援助してきた塚本秀子さん。「いろいろな人と出会ったことがプラスになりました。自分自身たくさん子どもたちと触れ合うことで人に優しくなることができました」と20年を振り返ります。

これまで出会った子どもたちの中で、塚本さんが一番再会してみたかったのが、会員として初めて援助をした東優希さん。塚本さんのお気持ちを優希さんに伝えたところ、優希さんが快諾してくださり、12年ぶりの再会を果たしました。二人は、少し緊張しながら当時を懐かしみました。

つかもとひでこ 塚本秀子さん、あずまゆうき 東 優希さん

援助会員の塚本さんと預かっていた依頼会員の子の優希さん。2歳から3年生まで援助していました。



家族のような存在

「初めて預かったとき優希ちゃんは2歳で、初孫のようでした。わいけて仕方ありませんでした」と話す塚本さん。優希さんも「塚本さんの家に行く日をとてもし楽しみにしていたことを今でも覚えています」と笑顔を見せます。「塚本さんの家では、お孫さんたちと一緒に遊べて本当に楽しかった」と話す優希さんは、塚本家ではいいお姉ちゃんだったようです。みんなと一緒にご飯を食べたテーブルを見て「おじさんはここに座っていた」など家族みんなのことを覚えていた優希さん。その話を、塚本さんはうれしそうに聞いていました。